

## 四国民放クラブだより

### 私の音楽遍歴

河野 照雄 (RKC)  
 フォルクローレ編

今回は、中島栄治氏の紹介で、聞き始めたのが、フォルクローレです。

特に、アタワルパ・ユパンキの『トウクマンの月』と『牛車にゆられて』は、印象に残る曲です。今も、『アタワルパ・ユパンキ・ベスト20』のCDはよく聴いています。



私のフォルクローレ入門が、ユパンキのレコードであることは間違いないのですが、他の奏者で聴くユパンキの曲の良さが解ってきました。

ユパンキは、3度来日していますが、フォルクローレを知るのが

遅く残念です。フォルクローレは、中南米各国に広がっていますが、地域別に考えてみたいと思います。

アタワルパ・ユパンキは、アルゼンチンの草原地区の出身ですが、大草原(パンパ)の吟遊詩人の心の歌で、『インディオス村のサンバ』(ロス・キジャ・ウアシ)『ラ・アニューラ』(ファンボ・ドミンゲス)『ロサーノのサンバ』(コンドルカ)『ロサーノのサンバ』(コンドルカ)など、サンバの曲は、私の好きな曲です。

次にアルゼンチンの山間部の曲を、考えてみます。

ウニャ・ラモスの演奏で、代表曲『灰色の瞳』や『悲しき忘却』『オレンジ林』などがあります。そして、アントニオ・パントーハの『滅びゆくインディオの哀歌』ケロ・パラシオスの『二羽の小鳩』等があると思います。

パラグアイ、ペルー、ボリビアについて、曲を列挙しますと『カスカード(滝)』『鐘つき鳥』を代表曲として、『イパカライの思い出』『君しのぶ夜』『ウルグアイ川に捧げる』等が、パラグアイの曲です。ペルーの代表曲は『コンドルは

飛んでゆく』ですが、他に『コージャ族のお祭り』『インディオの漁火』など。ボリビアの曲では『アミーゴ』『カルナバル』『思い出』などがあると思います。

奏者も、ケーナのアントニオ・パントーハ、ウニャ・ラモスを始めとして、ケロ・パラシオス、コンドルカンキ、ロス・ライカス等まだまだあります。

第1回の時と、重なりますが、メキシコの『ラ・サンドウンガ』『ラ・ジョローナ』のロス・メカテロロスや、日本でも西田佐知子の歌で『コーヒールンバ』『ラ・パロマ』のロス・インディオスも含まれると思います。

フォルクローレ全般的に言えることですが、楽団の構成によりますが、アタワルパ・ユパンキのような、ギターと歌の形があればクリステイナとウーゴのようなデユオもまた、澄み切った歌声で『素焼きのかめ』『風とケーナのロマンス』『コンドルカンキ』などがあります。

これまで、ラテン音楽として、『キューバ・メキシコ編』『アルゼンチンタンゴ編』『フォルクローレ編』と書いてきましたが、どれも、

演奏者と曲の列挙に終始してしまい申し訳なく思います。これも、高校時代の先輩が、ラテン音楽鑑賞クラブ「ラテン高知」の会長を永年続けていた関係で私も所属していました。

しかし、会長が亡くなり「ラテン高知」も解散して、20年余となり、その後の、私のラテン音楽の勉強も、この時点で終わりました。元ラテン高知のメンバーで、今もパーカッション奏者がありますが、



私も、グイロとクラブスを持っています。が、今は、

桜材のクラブスのみ持っています。音響機器も、昔は、真空管2A3時代から、始まり、プリ・メインアンプや、レコードプレイヤー、スピーカーに至るまで、いろいろと手作りしましたが、満足するのは出来ませんでした。

ラテン音楽愛好の諸先輩方には失礼な文書になりましたが、終わりとします。